

だと思っただけで、選手を教えていて喜びを感じる時とはどんな時でしょうか？

秋田 いろんなことが達成できた時ですね。勝つことではなくて。それとやっぱり選手が本当に「仲間のために勝ちたいんだよ」とか「こいつのために勝ちたいんだよ」という顔をされたときですね。ようするに試合に出る奴じやなくてチームのために出てない選手のために勝ちたいそういう選手の顔を見たときは喜びを感じますね。

逆で指導者をやっている苦しい時はないですか？

秋田 小鳩のような心臓なんでも苦しいです（笑）。指導者というのは「教える、教える」と言っちゃって選手がやってくれないと教えないことと同じになるじゃないですか。そういうことを自分が毎回言っているも伝わらない、出来ないという事は自分の指導力がないということだと思っ。そこから辺の葛藤はありましたね。

話は変わるんですが監督はサッカーを見るとときどんな視点でサッカーを見ていらっしやるのですか？

秋田 サッカーは人間性の表現だと思うんです。一人一人、個性があってそれが人間とイコールなんです。なんて言うといいのかな。石橋を叩いて生活しているような奴は石橋を叩くようなサッカーをやるし、一発勝負の奴は一発勝負のようなサッカーをやるんです。そういうところを見るとなかなかおもしろいですね。

### 選手だけでなく指導者も海外へ行かなくては！

—では、駒大サッカーのいいところ、はじめてみる人にもここを見たらおもしろいところを教えてください。

秋田 シンプル イズ ベストですよ。チームのために労を惜しまない、勝つために何をやるか。よそ様が笑っても出そうなボールを追いかけるとか。これが僕の望む選手らしいサッカーだと思います。特に僕ら生らしているチームでは労を惜しまないこと目指しているチームでは労を惜しまないこと目指しているチームは大切になってくる。そうすれば、例え負けてもつぎにやるべきことがありますから。純粋にボールを追うとか純粋に勝ちたいという気持ちが駒大からは感じられる。テクニクとかタクティクス（戦術）とかよりも非常にハート、心がある。それが一番だと思います。人間は伝わるとか思っんです。情熱とかやる気とかかひたむきさっていうのは伝わっていきんですよ。ひたむきにボールを追っている子をはじめは「バカじゃないか」と思っけど、毎回毎回やっている「すごいな」に変わるんです。よ。「あいつのスライディング不細工だな」というのが毎回毎回やっている「あいつ本当にすごいな」に変わって、やられてもやられても向かって行けば「かっこいいな」に変わるんです。だから、そこないんですよ！そういうひたむきさ、情熱っていうのは学生スポーツには一番大切なことだと思っます。それを私は限りなく求めています。

秋田 う〜ん、寂しいと言っかもっと向上心をもっとやっって欲しいね。例えばプロを倒すとか。今の現時点でいい選手も持っている大学が寂しいじゃないですか。なんでプロを倒せないの！倒せるんですよ。そういうことがないのが寂しいですね。もっともって意欲をもっとやっって欲しいですね。指導者も同じ。海外に行きたいと言っ指導者は多いけど口だけ。他人の悪口になっちゃうのは嫌だけど学生選抜の監督とかをやりたい奴とかがいるらしいけど本当に大事なことを忘れているように思っます。遠い未来、近い将来を考えてやらないうと大学なんじゃないかな。大学に来て伸びる選手はたくさんいるじゃないですか。今年、出場機会の多かった川崎フロンターレの木村誠なるといい例ですよ。彼のもってるものは凄いい。ただ使い方はダメになってしまっ。日本の指導者っていうのは選手がどんな海外でやっっているのに誰一人として海外に飛び出さずとしない。自信がない、恐いんですよ。何言われるか分からないから。もちろん、日本でもやるんだらうけど。本当に、日本でやる自信があるなら海外に行かないのはおかしいじゃないですか？そして指導者と言っのは年齢などが変わったから教えられないと言っのではダメ。13だろ、16だろ、19が教えられなくてなんで指導者と言っます？おかしいじゃないですか。日本の指導者は高校生なら高校生しか教えられないと言っ人がいるがそれは違うと思っ。誰にでも教えれる。だから指導者と言っんだと思っんですよ。僕はそう考ええています。

秋田 アマチュアな部分があるからさっき言っようなひたむきさなんかだと思っます。もちろんテクニクとか戦術なんかも重要だけど一番大切なものは何かと言っと思う部分なんじゃないですか。そういうチームが純粋に出てくるとおもしろうと思っます。かっこつけなくて、下手は下手でいいんですよ。でも勝ちたい。慶應大学なんかはそういうものを持っていると思っませんか。ひたむきさを感じませんか？そういうことが大切だと思っし大学サッカーの魅力でなきたいと思っ。

秋田 人の痛みを知れということですね。自分さえ良ければいいというのは違うと思っ。みんな、悩んで苦しむんですよ。自分だけが苦しいわけじゃないんですよ。大きい、小さいはあると思っんです。自分の意見だけ通して、他人の意見を聞かないのは困る。もっと、大人になって人を思いやる、そういう気持ちをもっと持つて欲しいですね。と、私は思っます。それがサッカーにもつながっていくと思っます。

秋田 いや、それは個性をもった選手になって欲しいですね。例えば鈴木祐輔は鈴木祐輔で、中後は中後のままで、小林亮は小林亮のままで、原原のままでいて欲しいですね。みんな、オリジナルで平均だつたらつまんないじゃないですか。大切なのはその良いところが何であるかということ。ただし、ひとつだけみんなに持つて欲しいのは「チームの

秋田 人の痛みを知れということですね。自分さえ良ければいいというのは違うと思っ。みんな、悩んで苦しむんですよ。自分だけが苦しいわけじゃないんですよ。大きい、小さいはあると思っんです。自分の意見だけ通して、他人の意見を聞かないのは困る。もっと、大人になって人を思いやる、そういう気持ちをもっと持つて欲しいですね。と、私は思っます。それがサッカーにもつながっていくと思っます。

秋田 いや、それは個性をもった選手になって欲しいですね。例えば鈴木祐輔は鈴木祐輔で、中後は中後のままで、小林亮は小林亮のままで、原原のままでいて欲しいですね。みんな、オリジナルで平均だつたらつまんないじゃないですか。大切なのはその良いところが何であるかということ。ただし、ひとつだけみんなに持つて欲しいのは「チームの



「上」大学サッカーの魅力は、ひたむきさ、と云う。慶應大からはそれがひしひしと伝わってくる。「左」深井はやはり数多く教えてきた監督の中でも異色を放っていたと言っ。これから駒大サッカー部に彼を超える逸材は現れるのか？

秋田 サッカーは人間性の表現だと思うんです。一人一人、個性があってそれが人間とイコールなんです。なんて言うといいのかな。石橋を叩いて生活しているような奴は石橋を叩くようなサッカーをやるし、一発勝負の奴は一発勝負のようなサッカーをやるんです。そういうところを見るとなかなかおもしろいですね。



秋田 いや、それは個性をもった選手になって欲しいですね。例えば鈴木祐輔は鈴木祐輔で、中後は中後のままで、小林亮は小林亮のままで、原原のままでいて欲しいですね。みんな、オリジナルで平均だつたらつまんないじゃないですか。大切なのはその良いところが何であるかということ。ただし、ひとつだけみんなに持つて欲しいのは「チームの

**PROFILE**  
秋田浩一／あきた こういち

- 1955年9月2日生まれ
- 茨城県日立市出身
- 水戸商業高校一駒澤大学一國士館大学
- 1982年にコーチとして駒澤大学サッカー部に就任。1997年に監督に就任すると、「ベストポジションフットボール」を掲げ2002年の関東大学リーグ優勝を筆頭に数々のタイトルを獲得してきた。
- 好きな言葉は「自分に勝つことの出来る男は負けを知らない」「男の人生出会いとロマン」

秋田 アマチュアな部分があるからさっき言っようなひたむきさなんかだと思っます。もちろんテクニクとか戦術なんかも重要だけど一番大切なものは何かと言っと思う部分なんじゃないですか。そういうチームが純粋に出てくるとおもしろうと思っます。かっこつけなくて、下手は下手でいいんですよ。でも勝ちたい。慶應大学なんかはそういうものを持っていると思っませんか。ひたむきさを感じませんか？そういうことが大切だと思っし大学サッカーの魅力でなきたいと思っ。

秋田 人の痛みを知れということですね。自分さえ良ければいいというのは違うと思っ。みんな、悩んで苦しむんですよ。自分だけが苦しいわけじゃないんですよ。大きい、小さいはあると思っんです。自分の意見だけ通して、他人の意見を聞かないのは困る。もっと、大人になって人を思いやる、そういう気持ちをもっと持つて欲しいですね。と、私は思っます。それがサッカーにもつながっていくと思っます。

秋田 男の人生出会いとロマンだからな（笑）。俺の夢ってなんだろうな...、ポルトガル行って居酒屋やることかな（笑）。あとはまあ、サッカーが本場に文化として日本に根付いて欲しいしサッカーを愛する人たちが老若男女とわすれてサッカーの話をするだけで楽しいじゃないですか。やっばりこっ、夢じゃないけど駒澤大学のサッカー部から日本界のサッカーを動かすような人が出てきてくれればいいけど。まあ、俺の夢はポルトガルで居酒屋やることだな。サッカーで言えばさっきも言っただけ指導者も選手も海外に行っって色々なことを経験してきて欲しいですね。行かないことには「井の中の蛙」ですから。そして最後の夢は本場にサッカー好きな奴等と話をしよう。まい酒を死ぬまで飲みたいですね。